

新興国間貿易におけるインボイス通貨の選択 —タイの ASEAN 向け輸出に関する分析—

学習院大学大学院生 財務省 棚瀬順哉

輸出におけるインボイス通貨の選択理論については数多くの先行研究があるが、新興国間貿易を取り扱った先行研究は殆ど存在しない。世界経済における新興国のプレゼンスの高まりを背景に新興国間の貿易が増加する中、ASEAN 諸国間貿易におけるインボイス通貨の選択は、サプライ・チェーンでの通貨選択への影響の観点からも重要な論点となる。こうした背景に鑑み、本稿では資本規制や三角貿易など新興国に特有のファクターを加味したモデルにタイ中銀が公表しているデータを用いて、タイの ASEAN 諸国向け輸出におけるインボイス通貨の決定要因に関する実証分析を試みた。その結果、相対的な経済規模、輸出先国の資本市場の開放度、タイ・パーツの取引コスト、タイと国境を接しているか否かが、タイの輸出におけるパーツ建て利用に影響を及ぼしている可能性が示された。この結果は、新興国間の貿易においても、条件が整えば第三国通貨の米ドルではなく新興国通貨を選択する余地があるということを意味しており、今後アジア貿易における人民元利用拡大の可能性を示唆するものである。